

「京都府自殺対策推進計画骨子（案）」に係る主なパブリックコメントについて

1 意見募集期間 平成 27 年 10 月 5 日(月)から 11 月 1 日(日)まで

2 意見提出者 10 人、27 件

3 主な意見

<周知・広報>

- 周囲に「自死をほのめかす」人がいた場合に相談できる機関の認知度が不十分であり、広報を充実すべきではないか。
- 平成 28 年 3 月 1 日の京都いのちの日になんだ広報活動として、京都府自殺ストップセンターの愛称とキャラクターを府民から募集してはどうか。

<自殺予防教育>

- 小中高において自殺予防教育に取り組むことが、子どもの自殺を予防するだけでなく、生涯にわたっての自殺予防につながるとともに、教師の理解を促す近道ではないか。

<人材養成>

- ゲートキーパー研修だけでなく、電話相談員なども育成していく必要があるが、費用が高いので、府がボランティアを養成すべきではないか。

<若年層の自殺対策>

- 大学、大学院の既卒者に対して一定期間（3 年程度）継続して学生相談室で対応する取組等を行う大学を経済的、人材的に支援するようなシステムは考えられないか。

<職域、学校、地域における体制整備>

- 教員の心の健康の保持対策が必要ではないか。
- スクールソーシャルワーカーの役割を踏まえ、施策を盛り込むべきではないか。

<連携体制の整備>

- 生活保護の受給に至らない生活困窮者に対しては、地域あんしん支援員、コミュニティソーシャルワーカーがアウトリーチしていく仕組みが必要ではないか。

<相談窓口の整備>

- 24 時間体制の相談時間が理想であるが、できないのであれば、夜から昼前くらいまでの時間帯や日曜、祝日の対応などは考えられないか。
- 自死遺族等に対する支援臨床宗教師は、自死遺族等の支援だけに限定することなく、難病患者への相談支援等広く予防対策にも活用すべきではないか。

<ゲートキーパー研修>

- ゲートキーパーの定義を明確にすべきではないか。
- うつ病等の患者の早期発見・早期治療につなげるため、薬剤師にゲートキーパー研修を実施してはどうか。